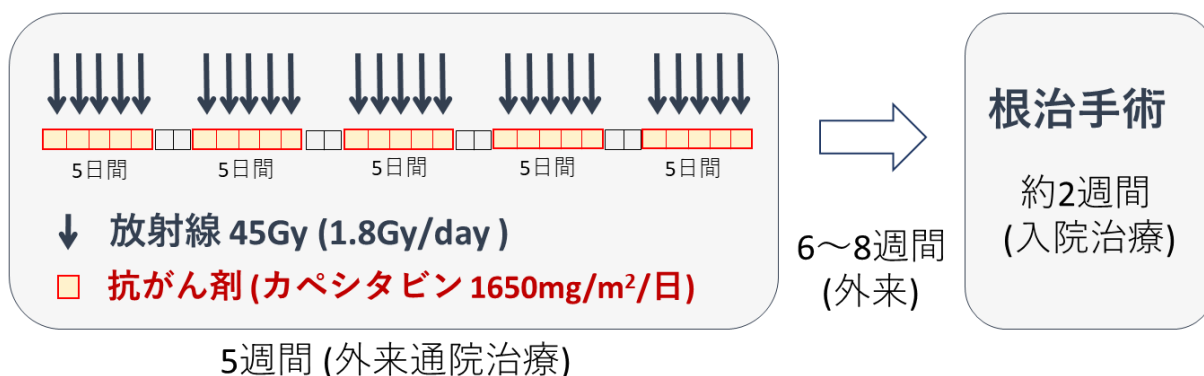


直腸癌に対する集学的治療（術前化学放射線療法 CRT）

直腸がんの治療選択は手術、化学療法、放射線療法があり、それらをどのような順序で、どのような内容で組み合わせるかが重要です。進行した直腸がんは、手術で病巣を切除できたとしても、のちに再発が起りやすいことが知られています。また、直腸は肛門に近い臓器であるため、直腸がんの手術では病巣と一緒に肛門を切除し、その結果、腹部に人工肛門（ストーマ）が必要になることがあります。そのような背景から、直腸がんの再発を減少させること、手術の際に肛門を温存できる可能性を高めることを目的として、手術治療に化学療法（抗がん剤）や放射線療法を組み合わせる、いわゆる集学的治療が試みられてきました。当院では進行直腸がんに対する集学的治療として術前化学放射線療法を2015年1月より導入しました。対象となるのは直腸壁に深く浸潤する、リンパ節転移を伴うような、進行した状態の直腸がんです。治療スケジュールは、放射線照射（1.8Gy/日）を25日間、放射線照射の日に抗がん剤（カペシタビン 825mg/m² ×2回/日）を内服し、その後6～8週間あけて根治手術を行います。

術前化学放射線療法から手術までのスケジュール



外来通院治療の1日の流れ

- ・1回の照射時間は、数十秒×4回です。
- ・放射線照射の時刻は、患者さんのご都合に合わせて決定します。

